資料２

令和元年度　基山町立基山小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
学び確かに　心豊かに　体たくましく	①学力の向上 ②心の教育の充実 ③健康安全指導の徹底

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	基礎学力の定着	・国語・算数の学習状況調査の正答率が県平均を上回るようにする。 ・家庭学習の徹底、継続を図り、全ての児童が宿題忘れゼロになることを目指す。	・学習状況調査の結果から、児童に身に付けさせるべき力を分析し、その力の育成を図るために、全職員で「授業づくりのステップ1・2・3」を参考にして指導改善を行う。 ・「学びの手引き」を活用し、家庭学習の充実を学習習慣づくり部を中心に推進する。	B	・学習状況調査［12月調査］の本校の正答率は、4年生の国語と4・6年生の算数が県平均を下回った。学年末に1年間の学習内容を振り返る課題を与え定着を図る必要がある。 ・「授業づくりのステップ1・2・3」による授業改善に取り組み、「話し合う活動」では、ペアやグループでの話し合い活動の場の設定をし、「書く活動」では、条件を示し書かせる工夫を行った。学習状況調査［12月調査］の結果、5・6年生の国語と4・5年生の算数が県平均正答率を上回った。 ・「家庭学習がんばり週間」を設け、保護者と共に取り組むことで、児童、保護者共に意識が向上した。宿題忘れの数も減った。	・12月調査や標準学力調査の結果を分析し、算数タイムや国語タイムの活動内容の見直しを行う。 ・新学習指導要領における育成を目指す資質・能力を明確にし、評価の考え方と仕方を実践的に学び、学力の向上につなげる。 ・引き続き、「家庭学習がんばり週間」を設け、家庭学習への取り組みの定着化を図る。 ・「授業づくりのステップ1・2・3」のVol.1 Vol.2を活用し、自分の授業実践を振り返り、授業改善を進める。 ・9年間の学びの連続性を意識した「学びの手引き」の見直しと活用を推進する。
教育活動	○読書活動の推進	読書の習慣化と多読の推奨	・学校図書館の年間貸し出し冊数を、一人平均100冊以上にする。	・ファミリー読書（親子読書運動）を推進・啓発し、読書の習慣化に取り組む。 ・図書館祭りを実施したり、多読賞を設けたりして、図書館利用について児童の関心を高める。 ・図書の貸し出しを常に2冊までできるようにし、多読を推奨する。	B	・6月と11月に「ファミリー読書月間」を設け、家庭における読書の推進や啓発に努めたところ、親子で読書を楽しむ機会が増え、読書量も増えた。 ・6月に「しおりコンクール」11月に「図書館祭り」を実施し、図書館から足が遠のいている児童が図書館に行くきっかけ作りをした。 ・図書の貸し出しを常に2冊までとしたことで、全体的に貸し出し数が増加したものの、個人差は大きい。 ・学年にふさわしい読み物を選べていない児童がいる。	・今後も引き続き、「ファミリー読書月間」や「図書館祭り」を実施し、児童や保護者への読書活動の啓発に努める。 ・2冊貸し出しや3冊貸し出しを今後も続けて、年間の貸出冊数の目標を平均100冊以上とする。 ・学年に応じた「おすすめの本」を紹介するなどして、発達段階に応じた本に関心をもつことができるような取り組みを進めていく。

②

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳の授業の充実	・互いのよさを認め、共に高め合う道徳の授業実践や学級経営を通して、児童の自己肯定感を高める。	・全ての学級が、土曜授業等を活用して、「ふれあい道徳」を実施する。 ・一人ひとりがよさを発揮し、互いのよさを認め合える授業や学級経営を行う。 ・自校のSTによる道徳授業に関する研修会や出前授業等を行う。 ・校内研究の一環として、魅力のある道徳の授業作りに取り組む。	B	・「ふれあい道徳」については全学級が実施できた。 ・よさを認め合う学級経営や授業については、2学期より月１回程度STを中心に情報交換を行った。 ・STを活用し、道徳授業のあり方や評価の進め方について研修を行うことができた。 ・校内研究においては、各学年2つの道徳授業を開発することができた。	・よさを認め合う学級経営の情報交換については、校内研究の時間などを活用して年度初めから計画的に実施していきたい。 ・昨年度、今年度に開発した道徳の授業などを活用しながら、道徳科の授業の充実に努めていく。
教育活動	●いじめ問題への対応	予防的・開発的生徒指導の推進	・いじめの未然防止のためのアンケート等を実施するとともに教育相談活動を充実させる。 ・佐賀県SC、SSWの活用を推進する。	・i-checkを年に2回、いじめに関するアンケートを学期に1回実施することで、児童の実態を把握し、結果の分析を基に、学年、学級経営に生かす。 ・SC、SSWの活用、保護者、地域、専門機関との連携強化を図り、生徒指導や教育相談体制の整備を行う。 ・個別の問題については、早期に組織的に取り組む。	B	・Hp－QUの利用と1、2学期のいじめに関するアンケートの実施により、いじめにつながる状況を早期に把握するとともに、それを日常生活や教育相談週間での面談に生かすことができた。 ・SCやSSWを活用し,保護者、地域、専門機関との連携を図ることができた。 ・個別の問題については、学年部やいじめ対策委員会で協議し、早期対応・早期解決ができた。	・日常の観察とともに毎学期の早い時期にいじめに関するアンケートを行い児童の状況を把握することで、より早期にいじめに対応できるようにしていく。 ・佐賀県SCやSSWを活用し、生徒指導や教育相談体制の整備を行う。 ・個別の問題については複数の職員で対応するなど組織的に取り組み、早期の解決を図る。
教育活動	○基本的な生活習慣の定着	あいさつ、返事、廊下歩行、スリッパ並べの定着	・「す・み・そ・あ・じ」を合言葉にして、あいさつ、返事、正しい廊下歩行、はきものをそろえる、ができる児童を80％以上にする。	・月毎の「生活目標」を「す・み・そ・あ・じ」に焦点化し、毎学期繰り返して取り組むことで指導の徹底を図る。 ・「基山っ子」（学校だより）や全校集会等で児童の頑張りを肯定的に評価し、あいさつ、時間の意識、はきものそろえを定着させる。	B	・あいさつ、返事、正しい廊下歩行、はきものをそろえる、ができる児童は全校的には90％以上であったが，80％未満の項目がある学年もあった。 ・あいさつについては，児童会や6年生児童による主体的なあいさつ運動の効果は出たが，年間を通してみると自分から進んであいさつをする習慣は定着していない。	・教室に入るときのあいさつ，廊下等での教師や来客へのあいさつ、地域の方へのあいさつなどについて，全職員の共通理解のもと，その場での指導や各学級での継続的な指導が必要である。
教育活動	○特別支援教育	特別支援教育の充実	・職員の共通理解と協力体制の確立を図る。 ・支援が必要な児童の実態を把握し、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、随時更新して、指導に生かす。	・教職員を対象とした特別支援教育に係る研修会や保護者を対象としたふれあい学級や学びの教室の運営に係る説明会を実施する。 ・関係機関との連携を図り、保護者・児童の教育的ニーズや願いを把握し、教育的な観点から適切に対応する。 ・特別支援学級担任と支援員とのミーティングや情報交換（特別支援日誌等の活用）を継続的に実施し、ふれあい学級児童一人ひとりの共通理解を図りながら適切な指導を行い、教育環境の整備を図る。	B	・夏季休業中に講師を招いて全職員と特別支援学級補助員対象に特別支援教育の研修を行い、児童の見取りや今後の支援の在り方、合理的配慮について学び、職員の共通理解と協力体制ができた。 ・毎週、特別支援学級補助員とのミーティングを行い、児童一人一人の情報を交換し、児童の実態を把握し、今後の支援について改善を図ることができた。 ・巡回相談や専門家派遣支援事業を通して専門機関との連携を図った。 ・全職員で、配慮を要する児童の情報を共通理解して、困り感のある児童に適した支援を考え、保護者へ寄り添った説明を心がけ、「ふれあい学級」や「通級教室（まなび）」についての理解を深め、入級に向けた取り組みができた。	・学校全体で組織的対応を行うため、年度当初及び定期的な情報共有と研修の充実と継続を図る。 ・個に応じた対応を充実する（個別指導計画及び個別支援計画の作成と更新）。 ・UDに配慮した環境整備を推進する。
教育活動	●志を高める教育	郷土についての学びや体験活動の充実	・社会科や総合的な学習の時間等、郷土を愛する児童の育成を目指した、カリキュラム・マネジメントを行う。	・「ふるさと基山の歴史」や「佐賀語り」「佐賀巡り」等を活用した授業に取り組む。 ・地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や表現活動を実施する。 ・小中の系統性を持たせた「基山学」を実践する。	B	・各学年の年間学習指導計画に基づき、地域の教育資源や人材を活用した学習や体験活動を行うことができた。（お茶、米、福祉、歴史など） ・基山の自然・歴史・人々の繋がりを表現した演舞を学び、運動会で意欲的に表現した。 ・「基山学」については、各学校で独自に実践し、紹介し合ってきたが、系統性を持たせるところまでは、至っていない。	・小中3校の「基山学」の実践を共有し、9か年の学びとするために、小中一貫したカリキュラムの検討を行う。 ・学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うために、キャリアパスポートの活用を工夫する。
学校運営	○人権・同和教育の推進	人権教育の推進	・基山町内の小・中学校で連携して、9年間を見通した系統的・継続的な人権教育に取り組む。	・人権教育の視点を位置づけた生活づくり、学びづくり、仲間づくりの研究に取り組む。 ・人権教育の推進を図るために人権標語の取り組みや人権集会を実施する。	B	・人権教育を視点においた道徳や各教科の年間カリキュラムを作成し、検討した。 ・人権標語づくりに各学級で取り組み「人権集会」で発表した。様々な取り組みで人権意識が向上した。	・児童が楽しく安心して学校生活を送れるように、人権教育の視点を位置づけた授業を行う。 ・学校生活だけでなく、地域の方との関わりを通した人権・同和教育の在り方を探る。

③

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	運動習慣の改善や定着化	・保護者と連携協力して児童の外遊びを奨励し、体力の向上を図る。 ・食育担当職員と学級担任が連携した食育指導を展開し、残菜率を5％以下にする。	・保護者と連携協力して児童の外遊びを奨励し、体力の向上を図る。 ・食育担当職員と学級担任が連携した食育指導を展開し、残菜率を5％以下にする。	B	・体育委員会主催の球技大会を通して、体を動かすことの楽しさを伝えることができた。 ・保健だよりを通じて、保護者に運動習慣の改善を啓発することができた。 ・食育担当職員と学級担任が連携し、月目標をもとに食育を行った。また、委員会活動で「給食放送」を行い、給食の献立や栄養について理解を促した。栄養を考えて食べることにより、残菜量は平均3.2％であった。 ・食育だよりを発行したり、1年生の保護者に給食試食会を実施したりして、食育の大切さを伝えることができた。	・体育委員会や保健委員会などの活動を通して、継続して体を動かすことに親しむことのできるような働きかけを行うことで、児童の運動習慣の改善に努めていきたい。 ・「身につけよう！食の力」や食に関する指導案、資料集などを活用し、給食時間や年間計画に基づいた食育指導を行う。
教育活動	○安全教育の充実	不審者・火事及び地震等の避難、交通事故等に係る安全指導の徹底	・安全指導を徹底し、交通事故および生活事故等起きないようにする。	・関係機関と連絡を密にした避難訓練や交通教室の実施及び児童の実態に応じた安全指導を徹底する。 ・安全部会の組織を中心に様々な課題に対して報告・連絡・相談を確実に行い、慎重かつ迅速な対応に努める。	B	・交通教室では、警察や交対協と連携し、安全な歩行や自転車の乗り方について指導し、児童の安全に対する意識を高めることができた。 ・地震火災や不審者対応の避難訓練では、関係機関の指導を受け、児童の安全な避難の仕方や教師の対応について学ぶことができた。 ・安全部会で各行事を分担し、協力・連携しながら実施することができた。 ・登校班長会を開き、安全な登校の仕方について指導することができた。 ・不審者対応等の事案に対応できる実践的な指導の在り方を検討する。	・長期休業前を重点的に、交通事故防止のための指導やヘルメット着用の指導を行う。 ・学級での事前指導を工夫し、避難訓練の必要性を高める。 ・安全部会での役割分担を明確にし、関係機関との連携を早めに取りながら、確実に各行事を遂行する。 ・児童の安全に関する事案が発生した場合、迅速に対応・指導していく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革	業務効率化の推進	・会議や事務の効率化を図り、教職員が児童と向き合ったり、教材研究をしたりする時間を確保する。	・会議や連絡会は、資料をデータ化し、事前に確認できるようにしておき、会議や連絡会の時間の削減を行う。 ・共有フォルダにデータを保存し、共有化を図り、効率的に業務を遂行する。	B	・会議資料や連絡事項について、事前にデータで提示し、会議の時間の削減を図ったり、会議の回数を減らしたりすることで、教材研究や事務の時間を増やすことができた。	・データの共有化に努め、「閲覧用はPDf」「提出文書はコーピーして使う」等のルールを徹底して、能率的な業務遂行やスムーズな業務移行を推進する。 ・研修の充実を図るために、研修のPDCAサイクルを作る。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

・基山町小中3校で「小中一貫教育」を推進するために三部会を設置し、研究や実践をしてきた。学校教育目標「学び確かに　心豊かに　体たくましく」の達成のために、「宿題をしてくる」や「進んであいさつをする」、「歩いて登下校する」等の達成行動目標を掲げ、各部会から合言葉の「す・み・そ・あ・じ」など、具体的で効果的な手立てが提案され、組織的な取り組みができた。また、学力向上に向けて「スキルタイム」や「すくすくテスト」、「基山小漢字検定」を実施し、基礎学力の定着に取り組んだ。今後も「継続と徹底」を意識して学力向上を実現したい。その他の課題に対しては、「報告・連絡・相談」を基本に担当者や学年主任を中心としながら、管理職とともに課題解決にあたることができた。
・次年度は、三部会から、9つの専門部に組織改編し校内組織も関連づけることで、これまでの取組の精査を図るとともに、各専門部の機能強化と専門性を高めていく。
・学年主任や各主任を核とした組織的な指導体制をさらに強化し、ミドルリーダーの育成と若手支援を継続して行い、実践的な研究を深めていく。
・特別な支援を必要とする児童に対する支援体制や支援の在り方について見直しながら、指導者及び特別支援学級補助員を含む全職員が児童理解に努め、スキルアップしていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目